

I トド駆除

前号「災害派遣・民生協力異聞」で取り上げた話題以外に、実は気になっていたことがあって調べて貰った。それは、「陸上自衛隊によるトド駆除」に関することである。

トド駆除、それは確かに事実として昭和 36 年頃から 44, 45 年頃まで、日高新冠町の地元漁協の「トドに魚網が荒らされ、漁業資源を食い荒らされて困るので、何とか退治して欲しい」との要請を受けて、高射特科部隊が、海上射撃訓練として実施した経緯がある。



今は既に使用されていない高射機関砲で、1,200m離れたトドの集まる通称トド岩のトドに射撃をして、所要のトドを駆除して、漁民から感謝されたのである。

尚、朔東管内においては、同種の民生協力は行っていないけれども、第 5 高射特科大隊が昭和 36,37 年頃、新冠での駆除の為の射撃訓練に、当時の高射機関砲を使用して参加したことがある。

(高射大隊OB談)

高射機関砲が据え付けられた新冠町宇節婦の旧御野立所台上には、「海馬供養記念碑」が昭和 36 年 10 月に建立された。

トドによる漁業被害は、全道で 13 億円余りと推定されており、漁民にとっては深刻な問題である。現在、網の強化や銃による駆除が行われているが、トドはレッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に分類されているので、年間 100 頭余りを上限とした駆除が認められているに過ぎない。

国際的な絶滅危惧種ではあるが、一方有害獣である事も事実であり、海洋生態系の多様性の保護と漁業被害対策をも含めた漁業資源の持続的利用との節調を如何に図るべきか、人間の叡智が求められている。

トドは、アイヌ語の「トンド」からの転化であり、和名は「海馬」、英語では sea lion である。アシカ科の仲間では最大、北海道には繁殖場はないが、全域に出現する。一夫多妻型で雄が大きい。トドは雄 1、2 頭を核に、雌と子供でハーレムを作り、かつては 200 頭以上の群れもあったとか。

南下する流氷に追われるように知床沖に回遊し、更に襟裳岬やそれ以南に南下していく。

新冠の海馬（トド）岩にも、この様にして沢山の南下したトドが集まっていたのだろう

網走群羅白町の道の駅「知床らうす」に隣接したその名も海馬屋さんでトドの肉に挑戦したらどうだろうか。色々なホームページを調べる限り、日本でトド肉を提供して呉れるのはこの店だけのようだ。鯨に似て弾力があって刺身良し、陶板焼き良しとか？

II 流氷離岸の為の爆破試験(昭和 38 年 3 月)

網走新聞昭和 38 年 3 月 11 日付の記事に面白いものを発見してくれた。その記事全文を紹介する。

「流氷の離岸早める きよう網走港で 自衛隊が爆破試験
自衛隊美幌駐とん部隊と NHK 共催の流氷爆破減験は十一日午前十時から綱定港の自灯台と赤灯台の間地点で自衛隊員約十人が参加して行なわれる。

この流氷爆破試験は、自衛隊の演習と爆薬の流氷に対する威力、音響の程度、流水の厚さ、流氷の流れなどの調査を兼ねて行なわれるもので、この爆破作業により、流氷の離岸を早め沿岸のウニ、ツブなどの採取もでき漁民にも喜ばれる。

なおこの爆破作業のため当日午前中は付近に近づかないように海保や警察では市民に警告している。」 以上である。

昔は「援農」というのもあり、それなりに結構楽しかったのものだ。沖縄勤務時代には、サトウキビ畑で、刈って束ねた唐黍を車の位置まで運ぶ作業を行ったが、バランスを取るのに苦労した記憶がある。

何れにしる、古き良き時代だったのかも知れぬ。